



新会長就任のご挨拶

一般社団法人 長崎県建築士会

会長 中野 善弘

このたび6月の総会におきまして、長崎県建築士会会長を拝命いたしました中野善弘でございます。もとより浅学の身、大変微力ではありますが懸命に努めてまいりますので、皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

現在、建築士の資格取得者の減少と高齢化が進む中、長崎県建築士会の会員も大幅に減少しており、6年ほど前に1,100名ほどいた会員は現在900名を切ることになりました。期待された試験制度改革も地方にあっては、効果は限定的のようにも見受けられます。

しかし、このように厳しい情勢に包まれた中にあっても、会員皆様のご協力により、ヘリテージマネージャーの育成や歴史的建造物委員会の発足さらに景観整備機構の活動など一定の成果と評価をいただいているところでございます。さらには、建築士会活動の中心である青年委員会、女性委員会、まちづくり委員会などは全国や九州ブロックと歩調を合わせて懸命に活動していただいております。

さて、新年早々に起きた能登半島地震の大きな被害は、私たちにとっては近県である熊本で起きた地震とその後の様々な支援活動を鮮明に思い起こすこととなりました。まさに今この時も、能登半島近県の建築士たちがむせるような暑さの中で支援活動を行っています。災害に対する建築士の支援は応急危険度判定や罹災証明発行のための住宅被害認定、応急仮設住宅や復興住宅建設、歴史的建造物の被災状況調査と復旧修復活動など多岐に渡ります。これらの支援活動は建築技術者でなければできない重要な役割になります。また、当地長崎では地震への対応ばかりでなく、台風などに起因する風水害への対応も重要になりますが、現在の状況においては、いざ災害が起こってしまった時の初動のしかた、どのような支援が必要でどのように進めるのか、その備えに関してとても十分な体制にあるとはいえません。

そこで、このたびの機会に建築士会の活動の中に災害対策について考える委員会を設置し、他の専門団体の皆様と協調・協力しながら支援体制の構築を進め、災害対応に対する機運を高めていきたいと考えております。そしてこの活動の場が会員の皆様に広く共有されることを期待するところであります。

本会の目的は会員へのサービスと地域貢献であり、地域社会の期待に応えられる技術者集団でなければなりません。会員皆様の建築士会活動への参加をよろしくお願いいたします。